



みへでいろプロジェクト

「みへでいろ」=ありがとう、感謝

【プロジェクト内容】

島の自然の恵みに感謝をしながら資源を有効に活用し、農林水産業の活性化を図り次世代へつなぐ生業へと進化させるプロジェクトです。家庭菜園の普及や、新たな販売ルートの開拓、野菜を持ち寄り集いの場や、楽しみを創出します。また地産地消による島内自給率の向上を図り、台風などで物資が届かないときも生鮮食料が確保できる、災害にも強いまちづくりにつなげます。



【未来の暮らし】

●家庭菜園が変えた食と健康

・自家栽培（減農薬・無農薬）により、野菜嫌いの子どもたちも興味を持つようになり、食べ物の好き嫌いがなくなり、家族の健康意識が高まりました。

●「持ち寄り市」による地域活性化

・自給野菜を活用した人が集う交流の場となり、高齢者もあれこれ作って売るなどの活動が活発になり、高齢者の生きがいや町の賑わいを生んでいます。

●自給野菜等の活用と防災

・自給野菜等を活用し、台風による孤立に備えた加工品開発も活発化。島内自給力の向上とともに、人気のお土産としても定着しました。



【課題】

●島外依存のリスク

・輸送コスト増による価格高騰や、地球温暖化や気候変動による台風の頻発・大型化が予測される中、台風などで船が止まれば、物資が届かなくなり食料不足につながります。

●必要な対策

・島民の意識を変え、自給率を高める「地産地消」や持続可能な形での「産業化」を意識することが重要です。

【メリット】

●食の安全保障・防災力の向上

・農産物に加え、豊かな水産資源の活用を図り、食料を確保することで、災害時の自給力が図られます。

・台風などの欠航時に備え、自給野菜の生産量や魚介類の加工品により非常時でも食卓の維持につながります。

●子供たちの豊かな教育・食育

・農業や島の自然環境（海洋保護）への理解を深めるきっかけになります。

・自分たちで農作物を作り育てる経験が、島の多種多様な食材への興味を広げます。

●地域経済の活性化

・島独自の加工品（水産・農産）は「お土産」となり、外貨を獲得するコンテンツになります。

●コミュニティの再生と生きがい

・「持ち寄り市」に農産物や海産物、その加工品が並ぶことで、魅力と賑わいが高まるほか、出品する高齢農家の生きがいも生まれます。

